大会ボランティア募集要項について

1　募集要項の決定経緯

TOKYO 2020

ボランティアアドバイザリー会議

実務的な観点からのアドバイスに基づく土台の構築

- 「ボランティア戦略」策定（2016年12月）
- 「ボランティア募集要項（案）」の公表（2018年３月）

ボランティア検討委員会

従来に加えて、より幅広い専門家の知見を取り入れる

- 「ボランティア募集要項」の最終化に向けた検討を実施　（2018年５月21日、28日）

「ボランティア検討委員会」委員

	氏名　（あいうえお順）	
	太田　洋 氏	西村あさひ法律事務所パートナー
★	小澤　直 氏	日本財団ボランティアサポートセンター 常務理事
	粕谷　賢之 氏	日本テレビ放送網株式会社 取締役 執行役員
★	河合　純一 氏	パラリンピアン（水泳）、組織委員会アスリート委員
	清家　篤 氏（座長）	日本私立学校振興・共済事業団 理事長、慶應義塾学事顧問
★	中島　光 氏	笹川スポーツ財団 統括グループ長
	西尾　昇治 氏	東京商工会議所 常務理事
★	西川　千春 氏	オリンピックボランティア経験者
★	二宮　雅也 氏	文教大学人間科学部人間科学科 准教授
★	萩原　智子 氏	オリンピアン（水泳）、組織委員会アスリート委員
★	山本　悦子 氏	一般財団法人東京マラソン財団 ボランティアセンター長

★「ボランティアアドバイザリー会議」 委員

TOKYO 2020

2 ボランティア検討委員会における主な意見と反映内容

項　目	主な意見	反映内容
役割等の決定方法	・応募者の希望と実際の役割のマッチングの成否であることを追記した方がよい。 ・応募した人が、長期間マッチングの結果がわからない状態にならないよう早期に通知すべき。	・希望する役割等と実際の役割等のマッチングにより決定 ・マッチング不成立の際は、2019年９月頃に通知
活動期間・時間	・多様な方の参加を促すためにも、日数の緩和をしてもらいたい。 ・祝日や夏休み、少し空けた次の土日も使えば、10日間は難しくない。 ・過去大会（ロンドン等）での成功例は10日間であり、納得感がある。 ・「８時間程度」に、休憩時間を含むことを追記した方がよい。 ・日数と時間は、具体的な数字を明示した方がよい。	・10日以上を基本 ・休憩・待機時間を含む１日８時間程度
活動時にお渡しする物品等	・食事、保険、ユニフォームに加え、活動期間中の交通費を支給すべき。 ・ユニフォームは応募の動機につながるので、具体的に見せていく方がよい。	・ユニフォーム、活動中の飲食、保険、活動期間中における滞在先から会場までの交通費相当として一定程度